

砂丘

No.51 2018.12.

発行：独立行政法人 国立病院機構

鳥取医療センター

発行責任者：井上 一彦

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 巻頭あいさつ
2. 出前講座
3. 第6回鳥取医療センター病院フェスタ2018
4. Comedical topics
5. しゃんしゃん祭り



国立病院機構の経営状況と当院の今後の医療について —求められる医療を模索して—

9月末に機構本部主催の病院長会議が開催されました。本年は変則的に事務部長、看護部長も参加する合同会議となりました。機構理事長による
1. 経営状況 2. 平成30年度以降の運営方針等 3. 平成31年度以降の年度計画等の作成方針 4. 地域医療構想や医療法改正等への対応 5. 第四期中期計画 6. 働き方改革関係についてのお話があり、副理事長からは1. 働き方改革への対応 2. 無期転換ルールへの対応 3. 人事院勧告の概要 4. 特定保健指導の実施率向上への対応 5. リスク管理 6. コンプライアンスに係る注意喚起 7. 今後の検査試薬共同入札についてのお話がありました。

機構病院全体として厳しい収支状況が続いていることについては周知のことと思います。平成28年度に初めて68.4億円の赤字となり、29年度は改善傾向にあるものの21.6億円の赤字で終わっています。諸種の対策がなされており、本年度は7月までの経常収支が若干の黒字経営となっていますが予断を許さない状況です。少なくとも今年度は黒字化し、さらに次年度以降の経営の安定化が急務となっています。

今後の検討課題として、私たちの病院のような障害中心、精神中心病院では、在宅支援等の必要な対策を検討していく必要があります。地域医療構想を鑑みつつセーフティーネット医療が確実に行き渡るよう行政、福祉など地域の諸機関との連携を進める必要があると考えられます。ただ、当院のセーフティーネット系医療は、患者さんが紹介されてくるのを待っているという立場でおこなわれてきたように思います。31年度から第四期中期計画が変革期としての位置づけで始まります。変革の内容として、「病院が実施したい医療から地域に求められる医療への転換」、「治す医療から治し、支える医療への転換」などが考えられています。今後はセーフティーネット系以外の領域においても、得意分野を生かしつつ、患者さんや御家族、地域諸機関から期待される医療内容を模索し、地域に発信していかなければならないと切に思う次第です。



鳥取医療センター 院長
井上 一彦

○ 出前講座 公民館活動～地域とのつながりを求めて～ ○

行事企画委員会 委員長 平 居 順 子

地域との交流を深め、当院を知ってもらうため、昨年度より多職種で協力して公民館活動を行っています。昨年度は4回／年、97名の方を対象に健康相談を実施しました。

今年度も当院の特殊性や強みをアピールするため、認定看護師をはじめ多職種に協力を依頼し、健康相談を開催することになりました。まずは地域への案内用にパンフレットを作成しました。「出張！なんでも健康相談！」と題して、各職種ができる内容だけでなく、職種を組み合わせテーマを決めたり、猛暑だったこの夏のおすすめとして「熱中症予防」や「食中毒予防」などとテーマを工夫して作成しました。6月末に鳥取市の社会福祉協議会へ出向き、パンフレットを用いて健康相談の開催について相談しました。社会福祉協議会では「ふれあいデイサービス」という、65歳以上の方を対象に、いつまでも元気に暮らすことを目標にレクリエーションなどの活動を行っており、公民館から依頼があると思うとの返事でした。その後7月に入り、社会福祉協議会からの依頼で、第1回目の健康相談が開催できました。時間は1時間で、テーマはおすすめしていた「熱中症予防」についてでした。35名の参加があり、保水液の作り方を説明したり実際に試飲してもらったりと、講義だけでなく住民参加型で

に残るよう工夫をこらしました。参加者からは質問も多く、「保水液の作り方がわかっただけでも来たかいがあった」といった感想も聞かれ、健康への関心の高さが感じられました。その後も次々と依頼が舞い込み、計12回地域に出向くことができ、342名の方に参加して頂くことができました。参加したスタッフからは、「皆さんが喜んでくれて嬉しかった」「(参加者からまた来てほしい、とても良かったとの感想があり)行って良かった」などの感想が聞かれました。

私はこのうち3回参加しましたが、中でも一番印象に残っているのは、末恒地区の公民館祭りです。この時、ある高齢の女性は当院に受診したことがなく、障害がある患者のみ診療している病院だと思っておられることを知りました。誰でも受診してもらえることを説明すると、「そんなの知られてないわよ。」と言われました。こんなに近い地域に住んでいる方からの発言に驚き、広報活動がまだまだ足りていないことを実感し、このような地道な活動が院外広報活動の第一歩なのだと思います。

患者・家族・地域とつながり、選ばれる病院を目指すためにも、現在行っている公民館活動を今後も積極的に行っていきたいです。職員の皆様、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

開催日	場 所	内 容	参加人数
8/6 (月)	岩倉地区公民館	熱中症について	35 名
8/10 (金)	修立地区公民館	熱中症について	10 名
8/20 (月)	宮長団地集会所	健康を維持するための体力作り	22 名
9/13 (木)	立川 5 丁目公民館 (稲葉山地区)	元気に暮らしていける秘訣～老化防止～	30 名
9/21 (金)	駅前 3 区公民館 (湖山地区)	いつまでも食べられて、長生きするために	14 名
10/10 (水)	立川 3 丁目公民館 (稲葉山地区)	元気に暮らしていける秘訣～老化防止～	30 名
10/18 (木)	滝山町公民館 (稲葉山地区)	元気に暮らしていける秘訣～老化防止～	12 名
10/18 (木)	末恒小学校	看護師の仕事を紹介	45 名
10/19 (金)	滝山町越塚公民館 (稲葉山地区)	元気に暮らしていける秘訣～老化防止～	23 名
10/28 (日)	末恒地区公民館	公民館祭りで健康相談実施	45 名
11/5 (月)	岩倉地区公民館	ストレスとどう付き合うか	35 名
11/17 (土)	城北地区公民館	飲み込みの機能について 誤嚥予防のための日常生活	41 名



熱中症予防について



嚙下体操してます！



熱中症を防ごう！



健康を維持しよう！



○新採用医師紹介○

①氏名 ②職場・職名 ③出身地 ④趣味・スポーツ等 ⑤ひと言

- ①田賀 栄之
- ②神経内科医師
- ③鳥取市
- ④読書

⑤「医師は科学者たるべし」

常に科学的視点を持ちつつ、常に童心を忘れず、診療に当たりたいと考えております。



第6回鳥取医療センター病院フェスタ2018

看護師 安田 一平



私は、病院フェスタ実行委員として、展示部門のリーダーを担当しました。展示部門では、「病院で働くお父さんお母さん」をテーマに職員の子供さんに似顔絵を描いてもらい、55名の参加者の展示ができました。そのほか患者さんが作成した作品などを展示しました。また、今年初の試みで、病院の機能紹介のスライド映像を各部署に依頼し作成しました。展示部門の担当で話し合いを行い、投票方法や放映場所の検討など普段あまり関わる事ができない他職種の方と連携して取り組んだ事で、鳥取医療センターの新たな一面を紹介できたと思います。ご来場いただいた方や職員により、当院の機能を一番わかりやすく紹介している部署に投票していただき評価を得ることもできました。

個人的には、病院フェスタの広報の一環としてNHKの「ふるさと伝言板」という番組に出演しました。収録スタジオでのリハーサルやテレビ出演で緊張もしましたが、貴重な体験ができました。NHKのテレビ番組が大好きで、言葉を自ら発することが困難な病棟の患者さんが意思伝達装置(レッツチャット)で「安田さん、6時40分、テレビに出た」と書いて下さっており、自分に注目してくれて嬉しく思いました。来場された方に展示作品を楽しんでいただけたと同時に多くの方の笑顔を見ることができ、病院フェスタに携わることができて良かったと思います。



第6回鳥取医療センター病院フェスタ2018

副看護師長 村上 恵



第6回鳥取医療センター病院フェスタ2018が「地域と共に。あなたとつながる鳥取医療センター」をテーマに10月27日(土)に開催されました。天気に恵まれ400人程の方々にご来場いただきました。

メイン会場では太鼓・サクソによる生演奏を行いました。生演奏では地元を中心に活動されているサクソ演奏の「マッキー&サキソフンフレンズ」と広島より来ていただいた「風流打奏楽座・一夢庵」による和太鼓演奏の活気あふれる演奏を聴くことが出来ました。生演奏には患者・家族、地域の皆さんにお集まりいただき、ホールが埋め尽くされるほど多くの方に聴いていただくことができました。皆さん笑顔になり、手拍子も聞かれとても楽しいひとときになったのではと感じました。

市民公開講座では「認知症になっても大丈夫」「骨折せず健康寿命より長く(転倒防止体操)」をテーマに開催しました。認知症の講座では、フォーラム形式で認知症患者さんのご家族から在宅での介護経験や、患者さんが入院後の家族の生活や思いの変化などを語っていただけることが出来ました。また、転倒防止の講

座では、老人体験キットを使用した老人体験を行い、視野の狭さや動きにくさなどを聴講に来てくださった方々と共有することができました。

今回実行委員としてメインイベントに関わり、当日は来てくださった方々が楽しめるように、また、タイムスケジュール通りに実施できるよう心がけていました。しかし、太鼓の演奏が好評でアンコールを頂くことができ、予定時間を過ぎるというトラブルもありました。それにより市民公開講座が遅れ、聴講に来られた方々をお待たせすることになりました。途中ひやひやすることもありましたが、来てくださった方々の中には「楽しかった」「気分転換になった」などのお声をいただき、フェスタの準備期間も含め大変ではありましたが、頑張った良かったと思いました。手伝ってくださったボランティアの方々や来てくださった地域の皆様のお陰でとても楽しいひと時となり、フェスタを成功させることができました。ありがとうございました。



○ 職場紹介 ～臨床検査科～ ○

副臨床検査技師長 大畑 いく子

臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門に分かれ4名のスタッフで業務を行っています。



生理検査部門は(心電図・脳波・肺機能・ポリグラフィ関連・誘発筋電図・光トポグラフィなど)患者様と直接接しながら検査を行います。各検査は専用機器を使用して検査を行い、検査技師が検査の内容を充分に説明するなど、患者様に安心して検査を受けていただくよう様々な配慮をしています。

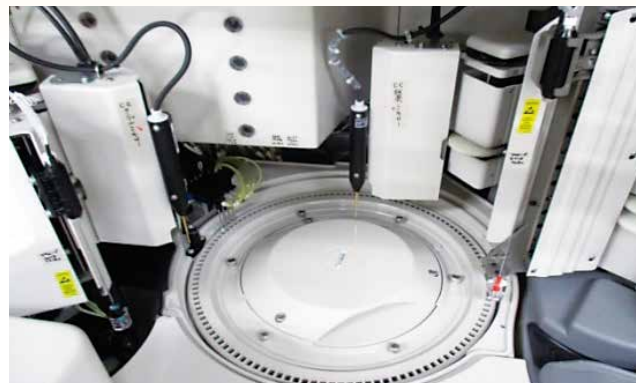


検体検査部門は、迅速性・効率性を考え、ワンフロア内に(生化学・血液一般・免疫感染症・凝固・細菌等)配置されています。

現在では、それぞれの検査がオートメーション化されており、専用ラックに検体を設置して検査を行います。

30年前の生化学検査は、科学実験のように試験管に血清を入れて試薬を加え、化学反応を起こして赤や青に変化した色の濃さを比色計で測り、濃度を出していました。それが今や、機械化された機械の中で瞬時に行われています。機械の中を覗いてみると、試験管の代わりに小さなガラスの管(セル)があり、血清や試薬を分注するプローブが忙しく高速で動いていま

す。ターンテーブルが回転しながら、縁にセットされたガラス管(セル)の反応液を比色して行きます。おかげで一時間に数百項目の検査が出来ます。



細菌検査は生化学検査などに比べて、人の手と目が多く掛かる検査です。検体を数種類の培地に塗ると、細菌の種類によって様々な形態のコロニー(菌)が発育します。病原性のありそうなコロニー(菌)を選び、同定と感受性の検査を行います。これは、菌と検査試薬が反応し、その色調変化を機械が自動判定することで、菌の同定を行います。またプレート内(検査試薬)には濃度の異なる薬剤が入っており、菌が発育するかどうかを読み取って感受性検査を行います。



その他に一般検査で尿の検査を行っています。尿の試験紙も以前は目視で判定していましたが、今では機械に乗せて自動で判定します。

多くの検査が機械化されていますが、機器にセットするまでの作業や機器のメンテナンスには多くの時間が掛かります。検査データを確認する作業は重要な仕事です。精度を維持しながら、迅速に検査データを返すようにスタッフ4名が頑張っています。

○ 職場紹介 ～心理部門～ ○

心理療法士 生 田 佳 恵



精神科心理部門には現在5名の心理療法士が在籍しています。当院での心理療法士の仕事の幅は広く、入院・外来患者さんへの心理面接や心理検査の他、精神科デイケア、医療観察法における心理治療、もの忘れ外来での心理検査、認知症患者さんのご家族を対象とした家族教室の運営、アルコール依存症の治療グループ、等を多職種と連携して行っています。さらに、行政との連携として地域の乳幼児健診への心理相談員の派遣にも応じています。しかし、“心理療法士って具体的にどんなことをするのだろう”と思われる人もおられるかもしれません。もしかしたら、“会話などのやりとりや心理テストで相手の心を読むのでは”と思われる方もいるかもしれませんね。

まず、心理療法士とは「心理学に基づいた知識と技術をもとに患者を援助することを専門とする職種」のことを言います。心理学を背景とした専門職の代表的な資格として「臨床心理士」があります。当院の心理療法士5名も“臨床心理士”の資格を持っています。さらに、今年、わが国では初となる心理領域の国家資格「公認心理師」が誕生し、社会的にも認知度が高まってきているところです。

ちなみに、国立病院機構において心理療法士は、他の職種よりも採用人数が少ないです。そのため、どんな業務をしているのかを知る機会や心理療法士に出会う機会がほとんどない方もおられるかもしれません。しかし、実際には心理療法士が活躍する場は医療、福祉、教育、産業、研究、司法など多岐にわたっています。

次に、当院での具体的な業務についてです。まず心

理面接では、医師の指示を受け、精神的な病気や心理的な問題を抱えている人等に対して、認知・情緒・行動などに働きかけ適応的な変化に繋がるように援助します。心理検査では、知的能力やパーソナリティ、認知機能などの検査を実施し、医師の診断や治療方針、支援の検討に役立てています。基本的に医師の指示により検査は実施しており精神科以外の医師の指示も受けて検査を行っています（神経内科、小児科）。

精神科デイケアでは、集団プログラム等の活動を通して利用者の特性を理解し、それぞ

れの目標・課題に合わせながら活動をしています。医療観察法における心理治療では、対象となった方が二度と他害行為にいたらないよう、病気に対する知識や対処を身に付けてもらう取り組みをしています。認知症病棟では、認知機能などのアセスメント（心理検査）や家族教室（講師として）の運営を行っています。

また、病棟内の治療プログラム“アルコールミーティング”の運営スタッフの一員としてアルコール依存症の治療に携わっています。そこでは、患者さんが酒害体験を語り、振り返り、共有することで問題への対処や今後の生活のあり方などを考えていけるように多職種で支援しています。施設外では、市町村で行われる3歳児健診に相談員として参加し、地域の子どもの健やかな成長、発達のお手伝いをしています。

幅広い領域で仕事をしている心理療法士ですが、様々な症状や問題、辛さを抱えておられる患者さんに対し、心理面接や心理検査、日々の関わりを通して、問題に対処する力や解決する力を高めていけるように支援していくことはどの領域でも同じであるといえます。

心理療法士は“会話などのやりとりで相手の心を読む”ことはできません。しかし、患者さん一人一人の希望や目標に向け、気持ちに寄り添って話を聞き、一緒に問題を整理したり、問題解決のためにどうしたらよいかを考えたりしています。より良い支援ができるよう多職種との連携を大切にしながら、心理療法士としての専門性を高められるよう日々の業務に励んでいます。

● Comedical topics ●

【薬剤部】(栗田益希)

骨粗鬆症治療薬について

骨粗鬆症は骨がもろく骨折しやすくなる病気です。今日骨粗鬆症治療薬は有効性の高い優れた薬剤が使用されています。ビスホスホネート系薬剤や抗RANKLモノクローナル抗体はその代表的な薬剤で、毎朝服用するものから、1度の内服で1ヵ月、もしくは1度の注射で1ヵ月～6ヵ月、1年効果が持続するものもあります。これらの薬剤での治療中に、ある種の医薬品、局所(あご付近)への放射線治療、抜歯など



の歯科処置、口腔内の不衛生などの条件が重なった場合、あごの骨に炎症が生じ、さらに壊死する顎骨壊死(がっこつえし)がみられることがあります。ビスホスホネート系薬剤による治療を受けていて、次の様な症状がみられた場合には、放置せずに医師・歯科医師・薬剤師に連絡してください。重症になる前に対処が必要です。またこれから抜歯やインプラントを入れる予定のある方は前もってこれらの薬剤を3ヵ月は休む必要がありますが、前述のとおり6ヵ月以上効果が持続する薬剤もあるので必ず確認してください。高齢の

方では、骨折は寝たきり状態につながる脳血管障害に次ぐ頻度の高い要因であるといわれています。薬物治療だけではなく、つまりいて転ばない為の運動能力の維持や食事に気を配るほか、正しい口腔ケアの習慣、定期的な歯科検診と必要な治療を受けておくことも「病気への備え」として必要なことでしょう。



【臨床検査科】(中嶋美香)

睡眠時無呼吸症候群(SAS)とは・・・

皆さん快眠は得られていますか？無呼吸とは、睡眠中に10秒以上呼吸が止まってしまうことをいいます。この無呼吸が1時間に5回以上、または7時間の睡眠中で30回以上ある状態を睡眠時無呼吸症候群といいます。

いびきや睡眠時無呼吸が、肥満と関係することはよく知られていますが、肥満以外にも①アルコールの飲用、②扁桃(へんとう)が大きい、③上向きでの睡眠、④下あごが小さい、⑤加齢、⑥鼻づまりなどの要因が関与しているといわれています。アルコール摂取は、寝つきをよくしますが、筋肉の弛緩作用により気道が



● Comedical topics ●

狭くなり、睡眠時の呼吸障害をもたらします。

いびきや睡眠時無呼吸症候群は、40代から増加してくると言われていますが、これも加齢による気道周囲の筋力や組織の弾力性が低下して気道が極端に狭くなる(気道がつぶれやすくなる)ことが原因とされています。

睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断には、睡眠ポリグラフィ検査を行います。この検査は、測定センサーを、頭皮、あご、胸部、指などに装着して、睡眠中の脳波、呼吸運動、動脈血の酸素飽和度、体位、心電図など、さまざまな情報を記録解析しています。そのため、専門の検査施設等に1泊入院していただいて検査を行っています。たくさんのコードを体に付けますので、動きにくくはなりますが、痛みを伴う検査ではありませんのでご安心ください。いびきや無呼吸でお悩みの方、当院までお問い合わせ下さい。



わからないけどイライラしている時、そういう時、皆さんはどのように対処されていますか？美味しい物を食べる、友達と話をする、温泉に行く、好きな音楽を聴く、運動する…など、皆さん、それぞれ自分にあった方法をされていると思います。今回は、そういう時に少しでも気持ちが楽になる方法の1つとして、「こ



ころの天気」描画法を紹介したいと思います。やり方は、簡単です。自分の気持ちを天気として絵に描くだけです。えっ、そんなので気持ちが楽になったりするの？と思われるかもしれませんが。そう思われた方、一度やってみてください。そして、もし自分に合っていたら新しい対処法の1つとして加えてもらえたらと思います。中には、ただ単に気持ちが楽になるだけでなく、今こんな気持ちだったんだ、とちょっと意外な自分を発見する方もいるかもしれません。

【心理】(常包知秀)

「こころの天気」

気持ちがもやもやしている時、あるいは、なんだか



● しゃんしゃん祭りに参加して ●

2病棟看護師長 川谷みのり

例年にない暑さで、猛暑という言葉を嫌というほど聞いた今年の夏。私は鳥取出身でありながら、初めてしゃんしゃん祭りに参加しました。

「新任看護師長はしゃんしゃん祭りで運営委員をする」と聞かされ、傘さえ持ったことのない私ができるのだろうか心配でなりませんでした。

その心配は、さらに5月にあった踊りの講習会で最高潮に達しました。小学生のころ花傘という小さな傘で踊っていた踊りと違い、きれいで流れるような勇壮な踊りを、全くといっていいほど覚えられず、踊りの講師を困らせてしまうほどの下手さだったのです。その後、運営委員は踊ることはなく、連を引っ張ってい

く役割とわかりましたが、いずれにしても荷の重い気持ちでいました。しかしうん十年ぶりのしゃんしゃん祭りを鳥取医療センター連の最後尾から眺めたとき、その圧巻さにそれまでの苦労がなくなりました。落ち始めた夕陽とそろった踊り、傘がすばらしく見事だったのです。踊りきった踊り子の人たちとの最後の写真はよい記念になりました。この場をお借りして、ご協力くださった職員の方々にお礼を申し上げます。貴重な経験をありがとうございました。

外来看護師長 山本純子

今年も8月14日、第54回鳥取しゃんしゃん祭に鳥取医療センター連は、総勢58名で参加しました。私はしゃんしゃん祭に初めて参加しましたが、4種類の曲と踊りがあることに驚き、各連の洗練された迫力ある創作踊りに圧倒されました。

鳥取医療センター連は、新採用者、新任者を中心に参加することが恒例となっており、初心者が大半を占めていましたが、放射線技師長、作業療法士さん達が、段階的に丁寧に指導して下さり、とても感謝しています。勤務の都合上、全員揃って練習することはできませんでしたが、本番ではバッチリ揃い、見事な傘踊り

が披露されました。暑い中、長時間踊り続けた踊り子の皆様、本当にお疲れ様でした。

私は初めてのしゃんしゃん傘踊りで担当者となり、不安だらけでしたが、諸先輩方から、たくさんのご助言とご協力をいただくことができました。多職種の方々に助けていただきながら、共に参加したしゃんしゃん祭りはとても楽しかったです。浴衣の着付けにご協力いただいた皆様、カンパをしてくださった方々、当日声援を送ってくださった方々に、とても感謝しています。ありがとうございました。



● しゃんしゃん祭りに参加して ●

作業療法士 橋 本 秀 次

今回、第54回しゃんしゃん祭に参加させて頂きました。新入職者、転勤者そして既卒者と幅広い参加者でした。新入職者、転勤者は緊張されており、練習では振付を覚えられるか不安な様子が伺えました。

忙しい勤務の合間を縫っての練習であったため、中々覚えられない参加者もいました。当初は働く職場が異なり、顔も名前も知らない職員同士でしたが、徐々に休憩中などにコミュニケーションを図ったり、振付を教えたりする様子が伺えました。

私個人は赴任以来3年連続参加させて頂き、今年は準備など裏方での参加でした。特に振付を教える事が多かったのですが、他職員の協力や踊り子同士での声の掛け合いにより、何とか全員が踊れるようになりま

した。それでも当日開始までは不安が拭えない方も多くいました。そんな中、「間違えても大丈夫。楽しみましょ。」と、声を掛け合う様子はいつの間にか、職員同士から「仲間」になっていたと思います。

今後は、しゃんしゃん祭を通して出来た仲間意識で鳥取医療センターを盛り上げていきたいと思っています。ご協力頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成30年12月1日現在

		月	火	水	木	金	
内 科	循環器	松 本		松 本	松 本	松 本	
	呼吸器	山 本	山 本	山 本			
神経内科	1	高 橋	齋 藤 (てんかん)	井 上	金 藤	土居 充	
	2	下 田	房 安	金 藤 (嚔下外来)	土居 充	房 安	
	3	小 西		齋 藤	小 西 (井上)		
	4			下 田	三島 香		
	5			北 川			
	専門外来 (予約制)	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚔下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	
もの忘れ外来		高 橋 (午 後)	房 安 (午 前)			土居・小西 (午 前)	
小 児 科		中 野	小 松	赤 星	中 野	赤 星	
	専門外来 (予約制)		発達外来	発達外来			
精 神 科	初 診	診察室 6	長 田	休 診	助 川	長 田	休 診
		完全予約制ですので事前の予約が必要です。					
	再 診	診察室 1		助 川			坂 本
		診察室 2		坂 本	土井 清	助 川	土井 清
		診察室 3		岩 田	長 田	幡	
		診察室 5		池 成		高 田	林
		診察室 8					柏 木
	専門外来 (予約制)					睡眠外来 坂本・高田	
外 科		古 澤	古 澤	古 澤	古 澤	古 澤	
整形外科 (隔週:8:30～13:00)			市立病院 医師				
リハビリ入院相談 (13:00～15:00)	地域医療連携室	齋 藤	土居 充	土居 充	齋 藤	齋 藤	

『鳥取県難病・相談支援センター鳥取』

受 付 時 間 平日 9:00~14:00迄
 電話・ファックス兼用 0857-59-0510
 メールアドレス soudan-sien@tottori-iryo.hosp.go.jp
 相 談 員 太田看護師

- ◆ 所 在 地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆ 電 話 0857-59-1111
- ◆ 診 療 受 付 時 間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆ 専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆ 休 診 日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ ホームページ <http://tottori-iryo.jp/>
- ◆ 地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713